

当面の技術対策（農産編）

平成23年6月1日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 共通

低温多雨により地温が上がらず、また土が締まった状態が続いています。作物の生育促進のため、積極的にカルチ掛けや畦間サブソイラーの施工などを行い、地温上昇や通気性の向上に努めましょう。

2 秋まき小麦

(1) 『きたほなみ』は『ホクシン』と比較し、たんぱく含有率が低い品種です。このため、ほ場によっては追肥が必要になりますので、止葉期までに窒素で4 kg/10aをめどに追肥を行って下さい。但し、過去に『ホクシン』でたんぱく含有率の基準を超えていたほ場については、止葉期追肥を控えて下さい。

(2) 病害の防除

小麦の重要病害である赤かび病防除は、適期となる開花時期にしっかり防除できるかがポイントです。しかし、降雨等により防除適期を逃している事例が多く見られますので、ほ場観察をよく行うとともに気象予報に留意し、「遅れた防除」にならないよう『早めの防除』を心がけましょう。また、2回目の防除が降雨等で適期に行えないと予想される場合には、散布間隔を短くし事前に防除を行いましょう。

表1 赤かび病防除を中心とした防除体系例

	防除時期	薬剤名	使用倍率	使用回数	使用時期	注意事項
必須	出穂がそろった時期	シルバキアフロアブル	2,000倍	2回	収穫7日前迄	うどんこ病、赤さび病にも効果あり。
		リベロフロアブル	2,000倍	2回	収穫14日前迄	
必須	1回目防除の1週間後	ベフラン液剤25	1,000~ 2,000倍	1回	収穫14日前迄	赤かび病防除には 1,000倍 で使用する。
臨機	以降天候等に応じて	ストロビーフロアブル	2,000~ 3,000倍	3回	収穫14日前迄	うどんこ病には効果が劣る。

注：耐性菌の出現を避けるため、DMI剤(シルバキアフロアブル、リベロフロアブル、チルト乳剤25)の総使用回数は2回以内とする。

3 てん菜

(1) 畦間の除草や土壌の通気性・排水性を良くするために、中耕作業を行ってください。但し、株元までの土寄せは、根腐病を助長するので注意しましょう。

(2) 除草剤を散布していない場合は、雑草の発生状況を確認の上、除草剤を適正に散布してください。

(3) 最低気温が下がり凍害を受けた場合には、「斑点細菌病」が発生する可能性があるので、ほ場をよく確認し、早期防除に努めましょう。

4 馬鈴しょ

(1) 中耕、培土

低温のため植え付け時期によって生育差が大きくなっています。生育状況をよく確認し、適期作業に努めましょう。特に培土作業は、遅れると根やストロンを傷めるので、早め早めの作業が重要です。

半培土は萌芽後7～10日目頃に、本培土は「萌芽期から約3週間頃」「茎長25cm程度」「着蕾始め」をめどに行いましょう。

5 豆 類

(1) 天候不順によりは種作業が遅れていますが、できるだけほ場の乾燥及び地温の上昇を待って、は種しましょう。

(2) ほ場の過湿状態は発芽や生育不良、根腐病の発生を助長しますので、は種直後に畦間サブソイラーの施工や多雨時に表面水を逃がすための簡易明渠の施工など、透排水性の改善を図りましょう。

(3) 除草剤は散布適期が狭いため、豆の出芽と雑草の発生を良く観察して使用してください。

(4) 中耕は除草剤の残効期間を考慮し、暖かい日に実施してください。

(5) 大豆わい化病・金時黄化病の防除（ジャガイモヒゲナガアブラムシ防除）

クルーザFS30を種子塗布した場合でも、アブラムシによる被害が懸念される場合は、出芽後子葉展開揃いに防除を実施しましょう。

農薬は適正使用し、生産履歴は忘れずに記帳しましょう！

農薬散布時のドリフトに注意！

ストップ・ザ・農作業事故！！